



のびのび いきいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』

【コンサート エミュー】

重原 安雄

平成六年六月に、清水靖夫先生のご指導で発足したりコーダーの合奏団です。当初プレザントアカデミーでスタートして、現在は女性センターを主に、青藍幼稚園ホール、田原のカワイ音楽教室などを練習会場としています。メンバーは家庭の主婦で、毎週火曜日の午前十時から二時間を練習に当てています。以来七年を経過しましたが、熱心な勉強ぶりで次第に技量も上達し、現在はソプラニーノリコーダーから、コントラバスリコーダーまで、七種類を使いこなす合奏団に成長してきました。そして、毎年何回か招かれて学校巡りをして、小学校のリコーダーの勉強のお手伝いもしています。子どもたちとの交流も楽しいものです。

去年の九月三十日に開催された、聴き合いコンサートにも発足当初から参加しています。これは、市内で音楽を勉強している仲間が、お互いに聴き合って自分をより高めていこうという音楽会です。

会員は、多少の出入りはありませんが、現在十二名です。主婦とパートなどのお勤めと兼ね合いを図りながら、勉強を重ねる仲間です。お互いの生活情報などの交換もこの会の大切な資本になっています。

練習が始まると、すべてのことを忘れて演奏に集中していきまします。取り上げる曲目も、バロックの時代の音楽から現代の曲まで、幅広いレパートリーで、音楽の歴史も体感しながら学習しています。合奏の面白さは自分の演奏だけでなく、他の人の演奏を聴きながら協力して音楽を作り上げていくところにあります。それがずっと継続していく力になっていてることを感じます。人生を豊かに過ごして行く上でも大きく役立っています。



コンサート エミューの皆さん

【吟道は私の永遠の師】

藤江 孝子(岳鶯)

私が詩吟に関心を持つようになったのは三才ごろでした。幼少より吟詠家の家に育ち、いつも吟を耳にしておりましたので、自然に稽古をするようになり高校卒業と同時に師範の免許を得て、それから現在までずっと吟の指導をさせていただいております。子育ての時も、人生の岐路に立ったときでも一度として吟をやめようと思ったことはありませんでした。むしろ励まされました。詩吟は私にとってかけがえないものとなっています。

中国の唐の時代に完成された漢詩を読み、そして吟ずるとき当時の中国人の人情の機微に接することができます。二千年以前の人間と現在人の心情が国境を越えて相通じるものがあることを実感しています。

漢詩に表されている名言は、ある時は私を教え導きそして励まし、また慰めてくれる不思議な魅力を持っています。私は日本の伝統芸術である詩吟を吟じ会員の皆様に伝えることを誇りに思う一方、これを一般の皆様にも広く普及したいと思っております。

当会(山梨岳桜会)も創立四十七年目を迎え、私も先代会長の後を任されてから七年目となり及ばずながら、地域に密着した活動ができるようになりました。今年七月から総本部主催の吟道講座が実施されますが、私もその講師として全国各地で講演することになりましたので、都留市に縁の深い芭蕉の句「馬ぼくぼく……」をはじめ、多くの俳句を取り上げ全国で紹介しながら都留市のよさを知っていただく予定です。

現在都留市には、七教場あってそれぞれ吟友が共に学ぶ喜びを味わっています。これからは一人でも多くの方に詩吟の良さを知っていただき、生涯学習の一環として、会員の輪を広げていきたいと願っております。ご理解あるご協力とご指導をお願い申し上げます。生命ある限り「吟道は永遠の師」であり続けるでしょう。



岳桜会の皆さん